

令和4年度 第2回 立川市史編さん委員会 会議録（要旨）

開催日時 令和5年3月28日（火） 午後1時30分～午後3時30分

開催場所 たましんRISURUホール第2会議室

出席者 [委員] 大友一雄 小林尚子 ◎白井哲哉 杉山章子 鈴木功
豊泉喜一 ○檜崎茂彌 和田哲

（◎委員長、○副委員長、50音順、敬称略）

[事務局] 産業文化スポーツ部長 井上隆一 市史編さん室長 轟誠悟
市史編さん係長 小川始 鳥越多工摩 朝比奈新 武田真幸
高野宏峰 渡邊皓太郎 黒河内貴光 鈴木啓太 山下祐香理

傍聴者 なし

会議は原則公開とする。

<報告>

1. 専門部会活動報告及び活動予定について（資料1）

事務局より資料番号1に基づいて説明ののち、質疑を行った。また、調査・編集に関する要望が挙げられた。

【主な質疑】

・**(要望)**『資料編 先史』の第9章「埋蔵文化財行政と普及活動」に関連して、開発や社会の変化に伴う行政の決定の記録や、資料の保存・管理の取り組み、活用の記録などは、部会に関わらず調査が進むことを期待する。

・**(質問)**『資料編 先史』の第9章「埋蔵文化財行政と普及活動」に関連して、郷土史研究を普及させる環境の整備や教育に対する調査の視点はないか。

→**(回答)**学校での教育普及や市民講座の開催などの実績はあるが、まとめるに至っていない。立川市歴史民俗資料館設置に関する調査が、教育普及に関する調査のひとつの成果と言える。

・**(質問)**『調査報告書 古代・中世編1 古代中世の考古・石造物・美術工芸』の内容に関して、板碑は一部焼損したものがあがるが、掲載されている写真は焼損以前のものか、以後のものか。

→**(回答)**第二部第二章に板碑を掲載しているが、市内の板碑に関しては基本的に拓本を掲載している。立川市歴史民俗資料館に所蔵されている焼損後を記録した写真と、焼損以前の写真が現存しているものはその写真も拓本と共に比較できるよう掲載している（凡例に詳細あり）。

・**(質問)**『調査報告書 古代・中世編1 古代中世の考古・石造物・美術工芸』について、実測図は3D計測から書き起こしているのか、それとも実物を計測して書き起こしているのか。

→**(回答)**石造物に直接手を触れることができないため、3D計測の画像処理から実測図を起こしている。

・**(質問)**近代部会の調査について、小学校調査で発見した資料の具体例をいくつか報告してほしい。

→**(回答)**第五小学校の資料に『資料編 近代2』収録範囲の時期の資料が見つかってお

り、『本編 通史』で取り上げたいと考えている。第八小学校の調査では東砂川尋常小学校の学校沿革史などの資料が発見されており、資料編にも掲載したいと考えている。来年度は第一小学校、第二小学校なども順次調査を進めていきたい。

・(要望)国立国会図書館や東京都公文書館で撮影・借用した資料の許可申請について、市史編さん事業のみでなく、事業終了後の活用も含めた申請が必要である。

→(回答)東京都公文書館に関しては市史編さん事業での利用のみで許可申請を出している。国立国会図書館は調査・研究の用途のみで許可申請を出している。複写資料の利用を市史以外も含めた公開範囲にすると利用のハードルが高くなる。

・(質問)現代部会の米国国立公文書館調査の委託先業者の選定について、現在の委託先が選ばれた理由が知りたい。刊行年度を一年延期して調査範囲を縮小したとして、調査は十分に実施できるのか。現在の条件で委託を進めた結果、今後予想される問題点などはないか。

→(回答)他の自治体の事例もふまえ、今回は米国国立公文書館に調査員が入っている資料調査会社に調査を委託する方法を選択した。委託先に関して、条件の合う会社の選択肢が少なく、おそらく特命随意契約のような形で委託することになる見込みである。当初は予備調査を含め2年かけて調査を実施する計画であったが、予算がついて執行する段階になった時に新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、米国国立公文書館が閉鎖された。最近になってようやく米国国立公文書館が限定的に開館したことで、調査会社側も当初の予定よりも限定的な範囲であれば調査を再開できるようになったため、来年度の予算で委託することになった。

・(質問)現代部会の基地関係調査について、自衛隊の立川駐屯地内に資料室があるが、調査は実施したか。

→(回答)まだ実施していない。今後調査したい。

・(質問)民俗・地誌部会の自治会調査に関して、大山団地自治会は書籍が刊行されるなど、住みやすい団地として全国的にも知られている団地である。ここの調査は進めているか。

→(回答)まだ実施していない。今後調査したい。

・(質問)民俗・地誌部会の調査で撮影した動画・静止画をどのように活用・保存していくか、市史編さん事業終了後どのように管理していくか、利用許可をどのように取っているか、方針を確認したい。また、事業終了後の期間も含めた、データ破損対策とバックアップを含めた保存計画を検討すべきである。

→(回答)活用に関しては、内容に個人情報が多く含まれるため、現時点では市史編さん事業のみの利用としている。その他の用途に用いる場合はその都度使用目的を明確化したうえで関係者に確認を取ることとしている。市史編さん事業終了後の利用に関しては、市史編さん事業で収集した資料全体の取り扱い方針として今後検討していきたい。

2. 令和4年度新編立川市史の刊行について（資料2）

事務局より資料番号2に基づき説明した。

3. 令和4年度市史編さん関連講演会について

事務局より令和4年度市史編さん関連講演会について、令和4年12月11日日曜日に女性総合センターアイムを会場として3年ぶりに対面形式の講演会を開催したこと、共通テ

ーマを「考古学と自然科学で読み解く先史時代の立川」として、谷口康浩先史部会部会長（基調講演）・山本華氏（「土器の種実圧痕からわかる縄文時代の植物利用」）・青木敬先史部会副部会長（「立川市の古墳―考古学と物理探査から探る―」）の3名を講師に迎え、市内外から60名の参加があったこと、参加者アンケートでは好評の意見が多数であったことを報告した。

続けて事務局より令和5年度講演会について、令和4年度刊行の『調査報告書 古代・中世編1 古代中世の考古・石造物・美術工芸』に関連した講演会を検討中であり、今後担当部会と調整する予定であることを報告した。

【主な要望】

・(要望)広報のやり方にもっと工夫が必要と感じた。

→(回答)立川市が運営しているLINEで講演会の情報発信をしたところ反響があった。今後はSNSを更に活用していきたい。

4. 令和5年度市史編さん事業予算について（資料3）

事務局より資料番号3に基づいて説明し、予算内訳は3月6日～10日に開催された市議会予算特別委員会で議決されたものであること、委託料には現代部会の活動報告にあった米国国立公文書館調査予算を含むことを口頭で補足した。

5. 砂川旧家の資料調査について

省略

6. 資料編「写真集」について（資料4）

事務局より資料番号4に基づいて説明があり、質疑を行った。また、調査・編集に関する要望が挙げられた。

【主な質疑】

・(要望)掲載項目案の飛行場の章について、空襲に関する項目が抜けている。米国国立公文書館が写真資料を所蔵しているので、調査し掲載すべきである。

・(質問)広報たちかわでの写真資料募集について、締め切りを設けたほうがよいのではないか。また、『資料編 写真集』に掲載しないとしても、今後も収集し保存していく計画はあるのか。

→(回答)『資料編 写真集』に掲載可能な期限を越えたものは『本編 通史』への掲載も視野に入れているので、引き続き写真収集を進める。

・(要望)立川駅設置の際、中央線を走行する機関車に水を供給するためのタンクがあった。このタンクの位置が駅の開発にも影響したはずである。タンクの写真があれば是非写真集に掲載すべきである。タンクは現在の西地下道の辺りにあったと思われる。これまでに収集した写真でも、タンクの有無に注目して調査してほしい。

<その他>

・(質問)議会で挙げられた市史編さん事業に関する質問の内容について知りたい。

→(回答)事業に関する質問というより、主に事業実績の報告と、写真資料などを用いて市史編さん事業の意義などを示した。

他、職員の異動についての報告があった。

<終了 午後3時30分>